

## 第1学年西組 国語科学習指導案

### 「う～んと、こうしよう！みんなで読もう！紙芝居 ～『おおきなかぶ』～」

学習指導者 東 泰右 ・ 支援員 林 麻衣子

#### 1 学級（32名）の実態

##### （1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査から、「国語科の授業で、分かったことから次の疑問や考えたいことを見付けている」と回答した子供は24名いる。しかし、実際の授業では、次の問題発見の場面において、やりたいことや考えたいことを友達に伝えたり、全体の場で発表したりするのは数名であり、多くの子供は、自分で問題を見いだすというよりも、友達が見いだした問題に同調しているといった様相である。また、見いだした問題の中には、単元の目標の達成につながらないものもある。

##### （2）本単元の学習に関する学級の実態

既習の物語教材『とんこととん』では、内容の大体を捉えて簡単な音読の工夫を考え、個人での音読を友達と聞き合う経験をしている。また、次にやってみたい言語活動としては、音読や劇、紙芝居のどれも同程度の子供が興味を示しており、一人よりもグループで発表したいと考える子供が多い。さらに、『とんこととん』における場面の様子や登場人物の行動、会話などを把握できているかを問うレディネステストでは、30名が完全正答できており、短い文章で書かれた登場人物が少ない物語では、ほとんどの子供が内容の大体を捉えられている。

#### 2 本単元で習得を目指す「次の問題を発見する」方法

目標の達成に向けて、まだできていないことを探す

#### 3 本単元で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿

見通し場面では、「友達と一緒に、『おおきなかぶ』の紙芝居を発表しよう」という単元の目標の達成に向けてこれまでに見いだした問題の中から、次にすべきことを考えるなどして、学習課題を設定する。さらに、これまでの学習で見付けた「読みの技（課題解決の手掛かり）」や「友達の技（他者と関わる方法）」を確認することで課題解決の見通しをもつ。

そして、『おおきなかぶ』の紙芝居を発表することに向けて設定した課題を解決していく。例えば、紙芝居の絵をめくる場所を考える際は、「②番は、おじいさんとおばあさんが二人でかぶを抜いている絵だから、このまとまりと合っているね。ここで②番の絵に変えるといいね」などと、文章のまとまりと絵を対応させていく。そして、絵が不足していることに気付いた後は、「③番の絵は、孫と犬が一気に増えているけれど、本当はこの前におじいさんとおばあさん、孫の3人でかぶを引っ張る絵が無いとおかしいと思うよ」「確かに、②番と③番の間に絵を増やすといいね。他にも、猫がやって来るところも無いから、ここも絵があったらいいな」「そうだね。〇〇さんのおかげで、新しい発見があったよ。ありがとう」のように、場面の様子や登場人物の行動、会話などを手掛かりとしながら、主な出来事や結末を大づかみに捉えるとともに、協働のよさや自己の貢献を感じていく。

振り返り場面では、「読みの技」や「友達の技」についてできたことを確認することで、自分の成長を捉える。そして、「ゴールは、紙芝居を発表することだね。今日、絵をめくる場所が決まったけど、まだ読む練習ができていないから、次はそれをしたいな」「いいね。めくる場所が決まったから、絵をめくるのに合わせて読んでみたいな」「役割分担をしたら友達と一緒に読む練習ができそうだね」などと、単元の目標の達成に向けて、まだできていないことを探すことで、次にやりたいことを見だし、次の学習に向けて意欲を高めていく。

#### 4 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①時

写真を基に、ボランティアの方々がグループで紙芝居の読み聞かせをしてくれた経験を想起できるようにする。絵があることで音読よりも場面の様子が伝わりやすく、これまでに経験した音読の工夫も生かせるという紙芝居のよさや、友達と協力して活動する楽しさを共有することで、グループでの紙芝居をやってみたいという思いをもてるようにし、「友達と一緒に、『おおきなかぶ』の紙芝居を発表しよう」という単元の目標を設定する。その後、紙芝居を発表する相手を自分たちで自由に決められるようにし、目標達成への意欲を高める。

#### 5 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時 2/6）

次	単元計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
	<p><b>① 『おおきなかぶ』には、誰が出てくるのかな</b></p> <p>登場人物の一部が差し替えられた『おおきなかぶ』の範読を聞いて、どこが変わっていたかを指摘する。本文を確認することで、誰が、どのまとまりで出てくるかを把握する。</p> <p>これまでの経験を基に、単元の目標を設定する。紙芝居を発表したい相手について話し合い、グループを作る。</p> <p>その後、紙芝居の発表に向けてまだできていないことを探すことで、絵をめくる場所を決める、グループで役割分担をする、読む練習をするなど、次時以降の大まかな見通しをもつ。</p>	<p><b>【認知段階】</b></p> <p>これまでの学習で、振り返りを行った後に、「ゴールに向けて、まだできていないことを探す」という「次の問題を発見する」方法と、その方法を使うと次にやりたいことが見付かるというよさを教示している。その際、友達と話し合うことで、自分では気付いていなかったまだできていないことに気がやすくなることも共有している。</p>
	<p><b>② 『おおきなかぶ』の絵をどこでめくるとよいのかな</b></p> <p>教師と支援員による『おおきなかぶ』の紙芝居を見て、文章のまとまりと絵を対応させる必要があることに気づき、『おおきなかぶ』の5枚の挿絵をどこでめくるとよいかを考える。場面の様子や登場人物の行動、会話に着目しながら、文章のまとまりと絵の対応を考え、その過程で、主な出来事や結末を大づかみに捉える。そして、教科書の挿絵の他に、「おじいさんがかぶの種をまくところ」「一人でかぶを引っ張るところ」「孫が増えるところ」「猫が増えるところ」の絵が必要であることを確認する。また、「かぶが抜けない度に登場人物が一人増え、みんなでかぶを引っ張る」ことが繰り返されているという展開の面白さに気付く。</p> <p>その後、紙芝居の発表に向けてまだできていないことを探すことで、役割分担をする、実際に絵に合わせて読むなどの見通しをもつ。</p>	<p><b>【想起段階】</b></p> <p>「次にやりたいことを見付けるためにはどうすればよかったかな」などと問いかけることで、「次の問題を発見する」方法を想起できるようにする。</p> <p>また、方法の想起が不十分な子供に対しては、個別に方法に関する掲示物への注目を促す声掛けを行うことで、方法の想起ができるようにする。</p>
	<p><b>③④ ○○のところはどうやって読んだらいいのかな</b></p> <p>③時は、「おじいさんがかぶの種をまくところ」「大きなかぶができるところ」「一人でかぶを引っ張るところ」、④時は、「○○が増えてかぶを引っ張るところ（6枚）」の絵について、どのように読めばよいかを考える。読み方については、場面の様子や登場人物の行動、会話に着目して、「わくわくしながら」「嬉しそうに」などの「音読の工夫カード」の中から、それぞれの絵に合うものをいくつか選び、選んだ理由とともに交流する。</p> <p>また、紙芝居の発表に向けてまだできていないことを探すことで、役割分担やグループでの練習を行う必要があることを確認する。</p>	<div data-bbox="1066 1608 1407 1845" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>つぎに やりたいこと をみつける ほうほう</b> </p> <p style="text-align: center; background-color: #ffffcc; padding: 5px;"><b>ごうるにむけて まだできていないこと をさがす</b></p> </div> <p style="text-align: center;">【方法に関する掲示物】</p>
	<p><b>⑤⑥ 紙芝居の練習をしよう</b></p> <p>⑤時は、グループごとに役割分担をし、これまでの学習を生かして練習を行う。⑥時の途中に、グループごとの発表を聞き合っ感想を伝え合う。もらった感想などを基に本単元の学習を振り返るとともに、紙芝居の発表（時間外）への意欲を高める。</p>	

6 本時の学習

目 標	場面の様子や登場人物の行動、会話に着目しながら、紙芝居の絵をめくる場所を考えることで、『おおきなかぶ』の主な出来事や結末を大づかみに捉えることができる。
--------	--

学習活動と手立て	主な子供の意識		
見 通 し	1 これまでに 見いだした問 題や教師のモ デルを基に、 学習課題を設 定する。	ゴールは、『おおきなかぶ』の紙芝居を 発表することだよ。	次にやりたいことをたくさん見付ける ことができたよ。
	2 活動の見通 しをもつ。	紙芝居は、絵をめくる場所も大切だよ。お話がよく分らなくなるよ。 先生は、「おおきなかぶ」の絵をどこでめくるのかな。 絵をめくる場所が変だよ。	お話と絵がずれているよ。 お話のまとまりと絵がぴったり合うようにめくらないといけないんだね。 <b>『おおきなかぶ』の絵をどこでめくるとよいのかな</b>
行 動	3 紙芝居の絵 をめくる場所 を決める。 (1) ペア  (2) 全体交流	最初は①の絵で決まりだから、どこ から②の絵になるかを考えるといい ね。②の絵はおじいさんとおばあさ んがかぶを抜いているところだね。	おばあさんはこのまとまりで出てきて いるよ。ここから②の絵じゃないかな。 ③の絵は孫と犬が増えて4人がかぶを 引っ張っているね。
		お話と絵がぴったり合うように、絵をめくる場所を決められたよ。	
		あれ。実際に読んでみると、絵とお話がずれているところがあるよ。	
		種をまいてすぐには大きくな らないから、絵を 増やさないと いけないよ。	おじいさんが一人 でかぶを抜いてい る絵も無いから、 ②の前に絵を増や すといいね。
振 り 返 り ・ 見 通 し	4 本時の学習 を振り返り、 次にやりたい ことを見いだ す。	時間が経ったり人が増えてたりする ところで絵をめくるといいね。全部で4枚 の絵を増やすと、お話のまとまりと絵が ぴったり合う紙芝居になるよ。 絵に合わせて読んでみたら、「かぶはぬ けません」が何回も繰り返しの面白 いな。	
		今日は、「絵と言葉をつなげる」の技 が使えたよ。他に、「動いて確かめる」 もできたな。	「友達の技」を使って協力したから、 お話のまとまりと絵がぴったり合うよ うにめくる場所を決められたよ。
		ゴールは紙芝居の発表だよ。まだできていないことはあるかな。 まだ役割分担をしていないね。次は、 同じグループの友達と役割分担が できそうだね。	まだ読む練習ができていないから、 グループの友達と一緒に紙芝居を 読んで練習したいな。
	ゴールに向けてまだできていないことを探したから、次にやりたいことが見 付かったよ。次の国語の時間も頑張るぞ。		

評 価	場面の様子や登場人物の行動、会話に着目しながら、文章のまとまりと絵が対応するようにめくる場所を決めることができている。また、紙芝居の発表に向けてまだできていないことを探すことで、次にやりたいことを見いだしている。 <span style="float: right;">【方法：発言、様相、表現物】</span>
--------	---

～見通し～ **学習活動 1・2**

補助黒板を基に、単元の目標と前時の学習内容を確認する。そして、前時に見いだした、次にやりたいことを振り返る際、紙芝居は絵をめくるタイミングも重要であるという思いをもっていたことを確認する。そこで教師が、絵をめくるタイミングに注目を促した上で、支援員と共に「おおきなかぶ」の紙芝居のモデルを示す。絵をめくるタイミングがずれた紙芝居を見て気付いたことを共有することで、文章のまとまりと絵を対応させる必要があることを確認し、「『おおきなかぶ』の絵をどこでめくるとよいのかな」という学習課題を設定する。

その後、他者と関わる必要感を生むために、教科書の挿絵を基にした5枚の絵カードと、本文シートをペアに1セット配布する。教師が支援員と共にモデルを見せることで、①どのまとまりで次の絵に切り替わるかを考える②次の絵に切り替わるまとまりの上に、その絵カードを貼るという手順を確認する。その際、掲示物に注目を促しながら、困った時や、よりよい考えをつくりたい時は、「友達の技」を使うとよかったことを確認することで、他者と関わる方法を用いながら課題解決することを意識できるようにする。また、これまでの国語科の学習で見付けてきた「読みの技」を全体で確認する時間を設け、使えそうな技を全体で共有することで、課題解決の見通しをもてるようにする。



【読みの技の例】

～行 動～ **学習活動 3**

ペア活動中には、「読みの技」を意識した発言をしている子供や、「友達の技」を使って友達と関わっている子供を価値付けることで、周りの子供たちもこれらの技を意識できるようにする。支活動の手順が分からず困っているペアには、目の前で教具を操作しながら再度手順を確認する。また、絵をめくる場所で悩んでいるペアには、全体交流の際に、悩んでいることを他の友達にも聞いてみるとよいことを伝える。



【本文シートと絵カードの例】

全体交流では、子供の発言に合わせて、拡大した本文と絵カードを操作することで、文章のまとまりと①～⑤の絵を対応させていく。そうすることで、文章のまとまりに対して絵が不足していることに気付けるようにする。子供からそういった発言が出なければ、実際に①～⑤の絵に合わせて文章を読んでみることで文章のまとまりと絵の対応を見つめ直せるようにする。そして、絵を増やした方がよいところはどこかを問い、子供の発言を共有することで、絵をめくる場所についての考えを集約していく。

～振り返り・見通し～ **学習活動 4**

単元を通して1枚の振り返りカードを用いて、自分が使えた「読みの技」、「友達の技」にチェックすることで、自分の成長を捉えられるようにする。使えた「読みの技」や「友達の技」を全体で共有する際、『読みの技』や『友達の技』を使って友達と一緒に考えたから、紙芝居の絵をめくる場所を決めることができたんだねなどと価値付けることで、これらの技を使うことの上さを感じられるようにする。

その後、「次に頑張りたいことを見付けるためにはどうしたらよかったかな」と問いかけることで、「次の問題を発見する」方法を想起できるようにする。その際、友達と一緒に考えることで、自分では気付いていなかったことに気付くやすくなるというよさを確認する。支方法の想起ができていない子供には、方法に関する掲示物への注目を促すことで方法を想起できるようにする。

この べんきょう の ごうる  
ともだちと いっしょに、( 6 ねんせい ) に  
「おおきな かぶ」の かみしばいを はっぴょうしよう

**ともだちの わざ**

①ともだちの やりかたを みる こまったときに つかおう

②ともだちと やりかたを 比べる ほくとちがう ところがあるよ。

③わたしは 〇〇だと おもうよ。

④ともだちに しつもんする どうして?

**つぎに やりたいこと を みつける ほうほう**

**ごうるに むけて まだ できていないこと を さがす**

		①どの わざが つかえたかな?		②つぎに やりたいことは みつかったかな?	
		よみの わざ		ともだちの わざ	
①	6 30 がっ にも	①・②・③ ④・⑤・⑥・⑦	①・②・③・④	☹️	😊
②	7 2 がっ にも	①・②・③ ④・⑤・⑥・⑦	①・②・③・④	☹️	😊

【振り返りカードの一部】

最後に、方法を用いて見いだした次にやりたいことを全体で共有することで、次時以降の大まかな見通しをもてるようにする。